

平成 28 年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 大学院生物資源学研究科

事業担当者の職・氏名： 教授・国際交流委員長・吉松隆夫

内線電話番号： 9528

電子メール： takaoyos@bio.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20 字以内，別に副題を付けても良い）

協定締結を目指したオランダ・ワーヘニンゲン大学との交流事業

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

平成 25-27 年度日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」において、研究者の派遣先の一つとなったオランダ・ワーヘニンゲン大学の水産養殖系のグループが平成 28 年 4 月 1 日から 10 日までの間、日本国内で実施する博士課程の短期国外インターンシップ事業への協力を要請された。その要請を受けて、生物資源学研究科の吉松国際交流委員長は連携大学院の増養殖研究所や三重県水産研究センター、あるいは民間養殖会社の協力を受けて活動内容を調整し、研究所、養殖現場訪問のほか 4 月 5 日に学内でミニ国際シンポジウムを開催することとなった。

またこれに関連し、本国際インターンシップ事業のフォローアップもかねてワーヘニンゲン大学の Verreth 教授が 5 月中旬より二か月間訪問研究者として生物資源学研究科に滞在することとなり、種々の便宜供与を行った。また滞在期間中、英語による専門分野の特別講義や特別講演会を実施した。またこれらの成果を受けて、大学院生物資源学研究科との交流協定締結に向けた最終調整をオランダで行った。

(2) 事業の背景・これまでの実績

オランダ王国のワーヘニンゲン大学は近年、フードバレー事業の成功等で世界的に名を馳せ、生物生産関連の大学では最も活発な活動を行っている大学として知られている。生物資源学研究科では JSPS の頭脳循環事業で数年前より研究者および学生の交流を行っているが、交流協定締結に向けて様々な交流活動の実績が求められている。

(3) 事業実施結果

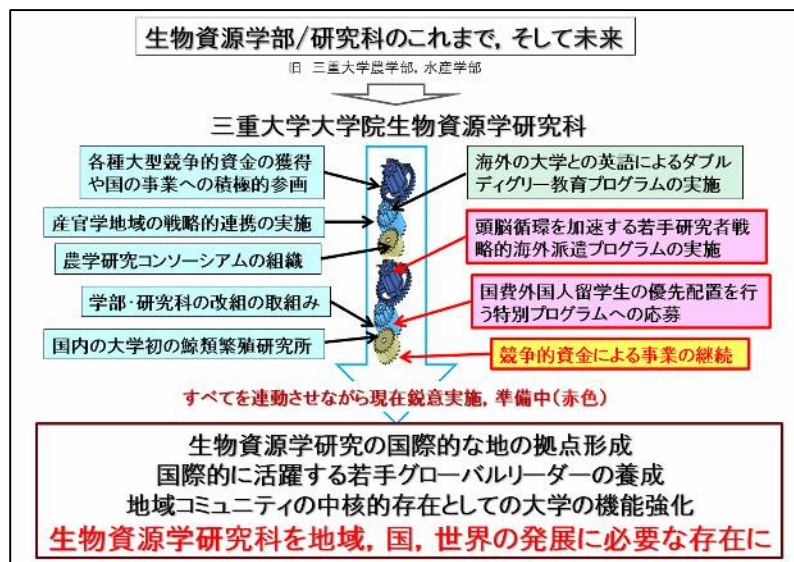
国内での訪問先の選定から講義内容までの諸調整を吉松国際交流委員長がワーヘニンゲン大学およびオランダ大使館関係者と協力して行った。約 10 日間の日本国内でのインターンシップ事業であるが、講義に協力していただく講師の交通費や随行員の旅費、ミニ国際シンポジウムの開催経費等はオランダ側の予算に計上されておらず、また本事業への協力は生物資源学研究科の国際交流の方針とも合致するので、本経費助成に不足分の経費支出を委ねることとした。さらにフォローアップも兼ねた Verreth 教授の本研究科滞在にかかわる近隣の研究所訪問等の経費や交流協定締結に向けたオランダでの会議のための出張費用の一部も、本事業費から支弁した。



(4) 事業の意義

農学，食品，環境関連の大学では現在世界のトップにランキングされているオランダのワーヘニンゲン大学との今後の共同研究や研究者交流につながる大変意義のある取り組みを実施することができた。また連携大学院と協働しながら海外の交流校との事業に取り組んでゆく新しい事業展開の形も生まれた。

(5) 事業の発展性



大学院生物資源学研究科は現在，平成 25－27 年度日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」の後継事業である「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」への応募準備を行っている。新事業においてもワーヘニンゲン大学は引き続き重要な派遣先であり，今回の助成事業により先方との受け入れ派遣の諸調整が容易となり，実現に向けた下地作りができた。また大学院生物資源学研究科との部局間の交流協定の締結が現実のものとなりつつあり，平成 29 年度末までの締結に向けて動きが加速した。将来的には大学院博士後期課程におけるサンドイッチプログラムなどの協同学位プログラムの設立も視野に入れ，さまざまな連携事業を推進予定である。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

本申請は，国際交流に関する第 3 期中期目標・中期計画の 2. 外国人受入れと学生、教職員の派遣の， 2) 学生の国際性の涵養を図るため、ダブル・ディグリープログラム、3 大学ジョイントセミナー、海外インターンシッププログラムなどの学生の派遣・受入れプログラムを充実させる、の部分に鋭く一致する。

(7) その他

特には無し。

平成 28 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

オランダ王国のワーヘニンゲン大学は近年、フードバレー事業の成功等で世界的に名を馳せ、生物生産関連の大学では最も活発な活動を行っている大学として知られている。生物資源学研究科では平成 25-27 年度日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」等において、数年前より研究者および学生の交流を行っているが、交流協定締結に向けて様々な交流活動の実績が求められている。事業の中で、研究者の派遣先の一つとなった本ワーヘニンゲン大学の水産養殖系のグループが平成 28 年 4 月 1 日から 10 日までの間、日本国内で実施する博士課程の短期国外インターンシップ事業への協力を要請された。その要請を受けて、生物資源学研究科国際交流委員会は連携大学院の増養殖研究所や三重県水産研究センター、あるいは民間養殖会社の協力を受けて活動内容を調整し、研究所、養殖現場訪問のほか平成 27 年 4 月 5 日に学内でミニ国際シンポジウムを開催した。またこれに関連し、本国際インターンシップ事業のフォローアップもかねてワーヘニンゲン大学の Verreth 教授が5月中旬より二か月間訪問研究者として生物資源学研究科に滞在することとなり、種々の便宜供与を行った。さらに滞在期間中、英語による専門分野の特別講義や特別講演会を実施した。またこれらの成果を受けて、大学院生物資源学研究科との交流協定締結に向けた最終調整をオランダで行った。

農学、食品、環境関連の大学では現在世界のトップにランキングされているオランダのワーヘニンゲン大学との今後の共同研究や研究者交流につながる大変意義のある取り組みを本経費助成事業で実施することができた。また連携大学院と協働しながら海外の交流校との事業に取り組んでゆく新しい事業展開の形も生まれた。



平成 28 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Wageningen University in Netherlands is well known to be one of the most active university in agriculture, food processing and environmental education and research in the world. This time, the Graduate School of Bioresources of Mie University accepted an international internship group comprising of ten PhD candidate students for ten days at the beginning of April, 2017. During the internship period students were offered various interesting excursions to research institutes including National Research Institute of Aquaculture, a member of Cooperative Graduate School Framework of the Graduate School of Bioresources, our research vessel SEISUIMARU, fish farms etc. Also an International Joint Symposium on Aquaculture was held in campus. Thanks to the program this experience was led up to a new faculty level partnership agreement with Mie University and Wageningen University. In near future we are planning to sign MOU with Wageningen University.

